

☆千葉県文化財保護功労者表彰☆

佐原の町並み保存の取り組み

文化財の保護・活用の見本と評価される



平成二十七年十一月二日(土)午後三時十五分〜四時十五分まで、千葉市のホテルポトブ...

石毛麻理・伊藤待子、両副理事長の他、会員四名が参加し、表彰式を見守りました。



第57号

平成28年2月

発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
電話 0478(52)1000



表彰式の後、お礼の挨拶をする佐藤健太良理事長

大きな影響については、震災直後は重伝建地区が二度と復活できないのではという思いに駆られつつも、勇気と誇りを取り戻して、国・県・市とあきらめずに交渉し支援を受けられたこと、また日本全国ばかりではなく、ワールドコミュニケーション財団やアメリカンエキスプレッソ社など、世界からも暖かい支援があったことに感謝の意を表しました。

つつ宮津市の歴史研究に貢献してきた八田英夫氏の二名。団体表彰としては、青木繁の「海の幸」誕生の家を保存する活動をしている館山市の保存会、市原市の古文書研究会と佐原の「考える会」の三団体でした。授与式後、挨拶に立った佐藤健太良理事長は、会の設立から現在までを簡明に説明。特に東日本大震災の



佐原町並み交流館を市民の交流の場に

館長・高谷正弘

今年度から、佐原町並み交流館の館長を務めさせていただいています。佐原町並み交流館は、町並みの保存活動に参加しておられる方々や佐原を訪れてくださる観光客だけでなく、その名の通り、市民の皆様との交流の場として活用し

電線地中化の進捗状況や

忠敬橋脇トイレの改修

佐原町並み保存会との合同会議
平成二十七年十二月八日(火)と一月十三日(水)の二回、町並み交流館において保存会と考える会の合同会議が行われました。

香取街道と小野川沿いの電線地中化の進捗状況と小野川左岸の市道の美装化工事や忠敬橋の橋脇に設置されているトイレの改修工事についての説明があり、二回目の会議では、東京大学の学生が作製した立体模型を見ながら、トイレ撤去後の具体的な建物のデザインについて話し合われました。

～佐原の町並み建物特別公開～

平成27年10月24日(土)～25日(日)午前10時から午後4時まで、伊能忠敬旧宅前での歩測体験と合わせて行なわれました。公開建物は、植田屋荒物店、中村屋商店、大高園倉庫、伊能忠敬旧宅、亀村本店、清宮家、福新呉服店、正上、土屋邸(さわらぼ2号)

忠敬橋は、ここがかつて佐原発祥の中心地であり、観光客を案内する際の出発点でもありますのでそれにふさわしい建造物設置を提案することになります。

ていただきたいと思えます。特に景観保存の取り組みについては、高校生や大学生のアイディアなども紹介しながら、市民の皆様のご意見をいただける場にしていくように努力いたします。二階のスペースは、様々な集まりにご利用いただいています。特に一階のホールは、これまで以上に地元の方々の活動を展示・紹介できる場とするように、更に力を入れて取り組んでいきたいと思えます。

佐原のまちづくりをテーマに

関東地区社会科研究大会公開授業で発表

佐原の町並みから学ぶ・千葉市立大森小学校

小学校社会科教育を推進し、その充実を図ることを目的に「みえる、わかる、いかす」を合言葉に、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことをテーマにした研究集会が、さる平成二十七年十一月二十七日(金)に千葉市で開催されました。午後に行なわれた分科会の第一会場となった大森小学校(中央区大森町)では、三年から六年生までの生徒それぞれが「地域から学ぶ」をテーマにした発表をしましたが、四年生は、「佐原」をテーマに選んで、「さわらに学ぶ千葉市観光プロジェクト」という公開授業を行いました。特に、四年一組には特別講師として佐原町並み交流館館長の高谷正弘さんが招かれて生徒からの様々な質問に答えました。



ゲスト参加した高谷館長には、子供たちから質問が相次ぎました。

大森小学校は、小学四年生の総合学習のための案内が開始されて以来佐原を訪ねて勉強を続けてきています。特に昨年、社会科の関東大会にあたり「佐原」を発表テーマに選びました。五月、三人の先生方が交流館を訪ねて高谷館長が案内し、夏

秋の大祭も見学しました。

十一月十一日、百人の生徒が教頭先生を含め五人の先生方に引率されて佐原へ来ました。

午前中は、三班に分かれて案内班と共に伝建地区を歩きました。水曜日のため商店は休みでしたが、特別に福新呉服店には店を開けて頂き、県指定有形文化財で江戸時代から続く老舗のおかみさんから直接に説明を聞き、午後は、江戸時代から酒造りの伝統を守る東薫酒造を訪ねました。

十九日に校内検討会を行い、二十七日の研究会では、沢山の見学者が見守る中、公開授業が展開されました。授業は四五分。先生から佐原の町づくりの様子と各班の話し合いの要点の説明

があった後、各班は佐原住民にインタビューした結果を出し合い、古い町が長く続いている様子などを発表し合いました。

質問の時間があり、ゲストとして招かれていた高谷館長は、「ボランティアは何人位いるのか、町ぐるみ博物館の数はいくつか、祭にはどんな決まりがあるのか、観光客に何度も来ていただく工夫は何か」などの生徒の質問に答えました。

佐原訪問の研究発表の成果として、「千葉の活性化」に役立つ提言が出来るのではと先生方は期待しています。

授業の後、高谷館長は「また家族と一緒に佐原へ行ってみたい」と話す沢山の生徒たちに囲まれました。



東薫酒造の酒蔵の歴史や醸造の方法などについてくわしい説明を聞く



福新呉服店のおかみさんから、店の裏庭の建造物についての説明を聞く



根本香子さんから、東日本大震災による有形文化財の被害の様子を聞く

佐原町並み交流館の行事

- 第一日曜日は骨董市
- 平成二十七年八月二日(金) 九月五日(土)
- 「パナマ伝統手芸で描く佐原の町並みと大祭」佐原モラ作品展
- 九月六日(日)
- 香取市さわら軒先コンサート「楽しい木管五重奏・五色織の調べ」
- 九月九日(水) 十月十二日(月)
- 佐原の大祭・懐かしのポスター展(秋祭り編)
- 十月十四日(水) 三十日(金)
- 「町並みを描く」佐藤清作品展
- 長い間、佐原を見つめ、描き続けてきた佐藤清画伯の作品を一堂に展示
- 十一月一日(日) 三日(火)
- 祝 佐原の大祭・二四町内獅子展(まちぐるみ小劇場)
- 十一月四日(水) 二二日(土)
- ミニチュアフード・ドールハウス展
- ミニチュア研究会代表・橋本京子
- 十一月二四日(火)
- 十二月四日(金)
- 「時の流れに感謝して・佐原との出逢い」魚谷幸子作品展

水戸光圀公と佐原

香取神宮の楼門横の「黄門桜」は、貞享元年(1684)3月に光圀公のお手植という。

光圀公は、「大日本史」編纂の際、鎌倉幕府の弾圧に抗した日蓮上人の聖地・誕生寺を訪ねて、日蓮の教えに帰依する法華宗信者だった。祖母・養珠院(紀伊藩初代頼宣、水戸藩初代頼房の母)も代々熱烈な日蓮宗信者の出で、関東で最初の日蓮宗壇林・飯高寺(はんこうじ)に帰依していた。慶安3年(1650)、飯高寺が火災焼失の際、これを再建、諸々の建造物を寄進した。その遺蹟を見るためもあり、元禄8年(1695)、光圀公は、江戸の帰路、中山法華経寺、多古の日本寺、飯高寺等、元禄11年、飯高壇林、元禄12年、佐原の宗勝寺や香取神宮、神埼神社(なんじゃもんじゃの木の名で有名)等を参詣。元禄11年には、下総飯高壇林を参詣した後、佐原村下宿の伊能権之丞方に2日間宿泊した。その際権之丞に「佐原より飯高村まで沿道30ヶ村の道筋一丁目ごとの両脇に松や桜を植えるよう」にとのお達しがあった。

公が佐原へやってきたもう一つの理由。天保5年(1834)正月「伊能権之丞家文書」公が目かけた御殿女中が城下の豪商加藤又衛門に下され、生まれた「さつ女」が二代目権之丞の長男と結婚した。伊能家は国分氏の重臣。国分氏は千葉氏滅亡後、鹿嶋へ逃れており、水戸藩との関わりが強い。後々、権之丞家は「水戸御用」をつとめた。九代斉昭公も天保5年(1834)3月19日、香取神宮を参詣し「恵みある風に知られていちじるし香取の宮の花の盛りは」と詠んだ。

飯高壇林は、武蔵国西党(平将門の乱頃の武士団)平山季重の末裔が多古に来て城内に日蓮宗学問所を開き、天正18年(1590)飯高城跡を寄進したもの。子孫は「平山五軒党」と呼ばれ、伊能忠敬の父親神保家と姻戚の平山藤右衛門家はその家柄である。

歩測と地図づくりの体験学習 子供たちと伊能忠敬の体験を共有する 山田支所の周辺を測量



早朝から山田支所に小学生測量隊整列



正確な角度、歩測の結果が良い地図に



分度器、物差しと計算機で地図の仕上げ

さらに広がる
今後は、富里小学校、多古小、柴町、また四月二三日には、成田空港主催での「歩測体験行事」が実施される予定になっています。

平成二十七年十一月二日(土)午前九時より山田支所で、小学生の「歩測と地図作り」の体験学習が行なわれました。
考える会の案内班、成田空港地域共生・共栄会議を中心としたメンバーが、二十名余の小学生生徒達による歩測体験の手助けしました。これまで数回の実習を重ねてきた経験から道具類も少しずつ改良されてスムーズに作業ができるようになりました。

まず、二十米の間を往復し、自分の一歩が何センチに当たるかを知ってもらおう作業をして、班ごとに出発点を違えて測量を開始しました。
支所の建物の周囲を景色を確認しながら一周して測量が終わり、山田公民館の二階視聴覚室で地図作成作業を行いました。

ちょうど、一階フロアでは伊能忠敬の大図の展示会も行なわれていました。
地図の作成作業は、子供達には戸惑いもありましたが、意見の交換を仕合い、角度を読みあげ、線を書き進むうちに大きな誤差もなく終点にたどり着くことが出来、伊能忠敬一行の苦心を体験し、達成感を味わうことが出来ました。



11月14日に、龍と花の天井画で知られる大龍寺(与倉)を訪問(案内班)。

- 十二月五日(土) 書星会節籠、本宮華水・席上揮毫
- 十二月六日(日) ピアノ三重奏とソプラノ歌手によるクリスマス・コンサート
- 十二月八日(火) 十三日(日) 日本盆協協会水郷佐原支部・冬季盆戯展
- 十二月十六日(水) 二十四日(木) 「佐原の観光と祭り」写真コンクール二七年入賞作品展
- 十二月二十八日(月) 平成二八年一月十一日(月) さわら・町並み・お正月・お正月飾り
- 一月三日(日) 「壽獅子舞と佐原囃子(神田水鼓の会・惠壽美会)」
- 一月五日(火) 三日(日) 「山の自然を編んで・つる芸」国立新美術館現展入選作家・藤ヶ崎たつ子作品展
- 一月二十九日(金) 三月二日(月・祝) さわら雛めぐり・お雛さまの舟遊び
- 三月十二日(土) 「さわら雛舟(ひなぶね)」

町並みを歩いて(その十二)

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

小野川沿いと香取街道沿いの店舗の商標に見慣れない数字が小さく書き込まれています。これは姻戚関係を表します。

香取街道にある並木乾物店は多古の中村の出身、苗字は「並木」、屋号は「中村屋」、当主が「平左衛門」で商標を〇に平としました。二代目当主は男二人、女三人を独立させます。長男は三代目に、長女

は多古へ嫁がせ、次女には婿を迎え大橋のたもと塩屋の屋敷を買取、屋号を中村屋、中常(並木常吉)と称して分家しました。商標は〇に平、右下に二としました。

三女は油屋四郎兵衛の家系(初代は国分氏の家臣・伊能姓)に嫁ぎ、のちに夫倉吉と共に「油四」の再興のために働きます。親元より財政的援助もあってか、「油四」は伊能姓

を改めて妻の実家の並木姓を名乗りますが、倉吉は商標だけは、元の油四の「井」桁をそのまま残しました。末子の次男寅之助は、永沢家の養子に入り戸主となり、並木姓を永沢姓に改めます。屋号は、親元の中村屋とし中村屋寅之助(中寅)、商標は〇に平、右下に四。

小野川沿いの並木仲之助商店(現在は和紙販売)は、中村屋乾物店の四代目の次男仲之助と大橋たもとの中村屋商店の次女が結婚、分家させた店です。商標は〇に平、真下に大きく二と書き、分家の分家ということを表しました。



観光案内に感謝の礼状

(その15)

小学四年生が、郷土を知る学習を行なうために佐原を選定。春と秋を中心に、佐原の山車祭、町並み、伊能忠敬を学びに訪れます。子供たちは、佐原の体験を通して、自分の町を見直すきっかけをつかんでいきます。その活発な学習の一例が「かべ新聞」や「新聞」発行です。



伊能忠敬の全国測量(第四次測量)

太平洋を南下、名古屋、日本海沿岸、佐渡ヶ島へ

享和三年(1803)、今回は東海、北陸、佐渡へ渡海せよと堀田撰津守よりお達しがあつた。五八歳の伊能忠敬、平山那藏、伊能秀藏、尾形慶助、下僕の久兵衛、新たに、村津大兄(おおえ)は陸奥国相馬郡代村津貞兵衛の一族の出。小野良助は上野国板鼻宿の人で数学の著述がある蘭島の雇い。従者が伊能吉兵衛の総勢八人。出立は二月三日(陽曆四月十六日)。太平洋岸を名古屋まで南下。

病者続出、苦難の前兆?

北陸路を聞が原へ。五月二十七日、敦賀着。ここで病人が続出。大兄がはしかに。元気なのは忠敬と秀藏だけ。翌二十八日は、親子で若狭の境まで船で下見し、翌々日も二人で敦賀辺を回り帰着すると、郡蔵も秀藏もはしかになった。

六月二十七日、安宅浦を案内した者は、村高・家数を聞いても領主から口止めされた山や嶋の名も答えない。安宅関跡は、一里先の海中に消えていた。能登半島を手分けをして測量。八月には越中から越後へ。八日に泊町の海辺を測量後、歌村着。止宿先の橋屋敷に着き宿役人に、明日は糸魚川町へ行くという

と糸魚川町の問屋八右衛門がやって来て

糸魚川事件とは?

「糸魚川領内の姫川は急流で海際は白間に及び、渡船、川超えは出来ない。街道を歩いて渡るよう」と言うので、忠敬は「これまで諸國の大河は全て渡って測

量し、海陸測量は可能だった」と反論したが、相手が不承知でゆずらない。

翌朝、忠敬自身も持病の瘧が発して苦しい中を、四ヶ村ばかり測量し姫川を渡ると、流れは少し早い小川である。流れに沿って海陸に行く河幅は十間位。簡単に測量を落された。糸魚川町の入口の出迎えは一名だけで、宿役人も来ない。

忠敬は、問屋八右衛門と宿役人を呼びつけて「姫川を渡って海辺を測量するのは手軽に相済んだ。だめではないか」と糺すと、一同一言もなし。十日、病気で寝込んでいると、糸魚川の役人が来て、詫言したので許した。八月二十六日、病氣も

天気も治まり佐渡へと渡る。

早速、先生から書状が

九月十六日付の高橋先生よりの書状。

「先頃、松平日向守様の領内で村役人の不行き届きがあった由。日向守様の耳に入り、村役人には吟味があった。」役人が意地悪をしたら「物知らかに御用の筋を申し聞かせて熟談いたせば差し支えなく出来たのだ。江戸で申し立ててもよかった。」今、天下の隠賢者達があなたの地図の成就する日を尊え待っている。後世永名を御残し候事、この時に就実に、あなたの一身天下腐学の盛衰に関わる事。かほこの大事業の正に成らんとするに、一小事で万々一中絶となれば、何程の残念と思召すや」と忠敬を諷めた。

中仙道を経て、江戸帰着は十月七日(陽曆十一月二十日)、日数二二九日。